令和２年度　自己評価表　（全日制）

松山南高等学校（全日制課程）
学校番号（２１）

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く　心を耕し　言葉を磨け

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒のキャリアデザイン能力の育成と自己実現の積極的な支援	１日平均家庭学習時間： 学年＋２時間 (A:+2 B:+1.5 C:+1 D:+0.5)	C	１年生平均185分（＋5分） ２年生平均205分（－35分） ３年生平均299分（－1分）	学習時間調査を徹底し、より一層の学習時間の確保を図るとともに、多角的な学習時間調査になるように研究を進める。
		現役生の国公立大学合格者数： ２５０人以上　(A:+250 B:+230 C:+210 D:+200)	A	３月31日時点で、279名が合格している。内訳は国立大学217名、公立大学62名である。昨年は、同じ時点で254名が合格した。	入試制度の変化や多様な選抜方法に対応できるよう、総合的な力の育成に努める。
		現役生の難関国立大学合格者数：２０人以上 (A:+20 B:+15 C:+10 D:+5)	A	３月31日時点で、合格者は20名である。昨年は、同じ時点で24名が合格した。	目標や適性に応じた個別指導を充実させる。
		全国模試平均偏差値：６０以上 (A:+60 B:+56 C:+54 D:+52)	B	進研模試で1年生58.4(3回) 2年生60.1(3回) 3年生文系56.3 理系53.9(5回)。	ICTの活用も含めて指導方法の工夫をさらに進め、学力の向上を図る。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：９０％以上 (A:+90 B:+86 C:+84 D:+82)	A	部登録・部結成の時期が例年より大幅に遅れたが、90%以上の加入率を維持することができた。	活動の短期的・長期的目標を明確にさせ、活動の充実感や達成感を持たせる。
		体育部において四国大会出場６部以上、全国大会出場４部以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	ー	県総体中止により、多くの大会の機会が失われた。新人大会で、テニス部・空手道が四国大会に出場した。	新人大会で県上位を収めた種目が多く、期待が持てる。部員数の確保に努め、限られた時間・場所での効率よい活動を推進する。
		県高校総文祭優秀賞： ６部門以上 (A:+6 B:+4 C:+3 D:+1)	A	美術、放送、自然科学が来年度全国高文祭の出場資格を得た。また、コーラス部、文芸部、美術部（リーフレット）が優秀賞を受賞した。	校内外の発表や展示の機会を多く設定し、意欲的にチャレンジさせる。

豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	先進的なＳＳＨの取組による新しい価値を創生する国際競争力を持った生徒の育成	全国レベルの科学コンテスト入賞数：１０件以上 (A:+10 B:+8 C:+6 D:+1)	A	全国での入賞が11件、全国での入賞や愛媛県内での入賞を合わせると40件であった。	コロナ禍で中止が多かった中、健闘した。理数科は現在の状況を維持させ、普通科生徒のコンテスト参加数を増加させるとともに、２年次からも積極的にチャレンジさせる。
		理数科生徒の総合選抜型入試・学校推薦型入試合格者数１０人以上　(A:+10 B:+8 C:+6 D:+1)	A	国立大学7名、公立大学2名、私立大学2名が合格し、合計11名である。	キャリアデザインファイル、キャリアパスポートを有効に活用し、生徒本人の適正と志望を生かした進路目標を設定させる。
		創作活動や各種コンテスト等へのチャレンジ：各生徒１件以上	B	1年生全員が家庭科ホームプロジェクト、書道・美術選択生は作品展への出品し、入選等の好成績を収めている。	各種大会のスローガンやポスター制作等への応募に対しても積極的に働きかけ、創作活動への意欲の向上を図りたい。
	心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：９９％以上 (A:+99 B:+98 C:+96 D:+94)	B	1/28現在、出席率１年生は98.8%、２年生98.4%、３年生98.6%であった。新型方コロナウイルスによる出席停止を考えると少々低い。	学校生活の充実、楽しい学校を実現していくことで、生徒の気持ちを学校にひきつけ、主体的に登校する生徒を増やすように努める。
		重大交通事故発生件数：０件 (A:0 E:+1)	A	重大交通事故発生０件であった。 軽微な接触などについても対応できているが、対応不十分な事案もあった。	重大交通事故発生０件はもちろん、重大、軽微に関わらず、事故対応100%を目指して指導していきたい。
		いじめはどこでも起こり得るとの認識に立ち、早期に発見し解決する。	A	いじめにつながる恐れのあるものも含め、発生事案０件であった。	ＳＮＳなど、いじめにつながる恐れのあるものは身の回りにあることを自覚させ、早期発見に努めたい。
		「オール南高」の意義を全校生徒が理解し、定時制・砥部分校と共有する。	ー	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、定時制・砥部分校との交流の機会を設けることができなかった。	創立130周年の年であるので、文化祭や芸術・文化発表会などの行事を通して「オール松山南」の意義を共有していく。
働き方改革	働きがいと仕事量のバランスのとれた職場環境の形成	ストレスチェックを指標として、仕事量とコントロール、上司と同僚の支援、総合健康リスクを健全に保つ。	B	ストレスチェックは、改善すべき大きな問題点はなく、昨年度同様比較的評価できる結果であった。	業務削減と適材適所の校務分掌の実施により勤務時間外在校等時間を減らし、仕事環境の改善整備の即時実行により心の健康を保つ。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。